

徳島市加茂名南小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○主体的・対話的・協同的に取り組む学習活動の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員

校長

奥村 兆男

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

外部講師や管理職、教員相互による授業参観、校内研修等、さまざまな機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能を身に付けようとする意欲が育ち、集中して学習に取り組んでいる。 ●当該学年で身に付けておくべき知識・技能が確実に身に付いていない。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得している。 ・知識・技能の習得のために、適切にタブレット端末も活用できる。	・個に合わせて、ドリルやタブレット端末を活用して、基礎的・基本的な知識・技能が確実に身に付くようにする。 ・知識・技能の確実な習得のために、まとめのプリントやテストを繰り返し行う。9割以上できるようにする。	・朝の活動を有効活用するために、活動例を全教員で共有する。 ・単元に応じて事前の復習のためのミニテストを行う。	・ドリル学習やミニテスト等により低学年においては、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いてきた。高学年は、繰り返し取り組んだり、テストの前にも学習する場を設けたりすることで身に付いてきつつある。	・朝の活動の時間や隙間の時間を、基礎的・基本的な学力の定着に当てられるようにする。 ・ICT年間計画を基に、学力向上に有効なタブレットの活用方法を検討し、実践する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ペア、グループ学習での話し合いを円滑に進めることができ、考えを整理したり、まとめたりすることができる。 ●他者の意見に流されてしまったり、語彙力が少なく主張できなかつたりと個人での発信が課題である。	・ペア、グループ学習の際には、思考ツールを適切に用いて、考えを整理したり、まとめたりすることができる。 ・一人一人が自信を持って、自分の考えを表現することができる。	・児童同士の信頼関係づくり、認め合える仲間作りを行い、表現しやすい環境作りに努める。 ・児童が自信を持って表現できるように、ヒントカードを用いたり、言葉を補ったりする等、手立てを講じる。	・自分の考えを書いたり、話したりする時間を授業の中で保証する。 ・話型を示す。	・話型に当てはめて話したり、書いたものを伝えたり、単語で答えたりすることはできるようになってきた。 ・自分の考えを持つことができない児童もまだいる。	・発問を工夫し、児童の思考を活性化させられるような授業づくりを行う。 ・語彙力を付けられるような取組を行う。 ・自分の考えが持てるような手立てを講じる。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の思いや考えを積極的に書くことができるようになってきた。 ●与えられた課題に対しては主体的に取り組めるが、自ら課題を見つけて取り組める児童は少ない。	・一人一人が毎時間の学習に目標を持ち、積極的に授業に参加している。 ・「次はこんなことを学びたい。」という意欲を持って、授業や家庭学習に取り組む。	・授業内容を充実させる。研修を行い、教員の授業力の向上を図る。 ・家庭学習の手引きや進め方を活用してもらい、家庭学習の充実を図る。	・図書室の環境を整え、利用を促進する。 ・中・高学年で自主勉強に意欲的に取り組めるようにする。	・教材研究をしっかりと授業や体験学習では、児童は積極的に参加することができた。 ・自主学習に意欲的に取り組めるようになってきた学年もある。	・授業に体験を多く取り入れられるようにする。 ・引き続き、教員の授業力の向上を図る。 ・児童が成功体験を積めるような課題設定を行う。

令和4年度 学力向上ロードマップ

